

(1941), p.p.

*Mnium spinosum* (Voit.) Schwaegr., Sp. Musc. Suppl. 1(2): 130, 78 (1816).

*M. koraiense* Sakurai, l.c., quoad fig. 1-a, d, f. (1941), p.p.

### References

1. Osada, T., An additional list of mosses from North Korea. Journ. Hattori Bot. Lab. 19: 60-66 (1958).
2. Hong, W. S. & Ando, H., An enumeration of Mosses recorded from Korea, with some new additions to the Korean flora. Theses of Catholic Medical College 3: 371-395 (1959).

\* \* \* \*

*Mnium koraiense* Sakurai は北鮮、遮日峰産の標本について設けられた種で、後に長田武正氏によって *Mnium undulatum* Hedw. の異名におとされた。しかし、植物学雑誌 55: 532 (1941) に載せられた原記載と附図を見ると、その雌株は *M. undulatum* の雌株とはロゼット状に塊った葉の形や、茎葉の附着状態などで多少異っており、疑問に思っていた。幸い今度、都立大学、牧野標本館の桜井コレクションの中に同種の基準標本を見出したので、この点を検討してみた。その結果、不実の茎は *M. undulatum* に間違いはないが、雌株の葉縁には明かに双生する歯があり、葉細胞の配列なども考え合わせると、既に北鮮より知られている *M. spinosum* (Voit.) Schwaegr. に当る。それ故上記のように整理した。

**○花三題** (山中二男) Tsugiwo YAMANAKA: Notes on flowers of *Hydrangea*, *Phyllostachys* and *Tricyrtis*

#### 1. ヤエノヤマアジサイ

ここにかかげた写真(図 1, 2)は、高知県土佐郡鏡村でうつしたヤマアジサイ *Hydrangea macrophylla* Seringe ssp. *serrata* Makino と、その中性花が重弁化したものである。海拔 300 m あたりの谷間に生じ、付近の蛇紋岩地やその周辺にはヤマアジサイが多い。花は美しい淡紅色であるが八重咲きのものもおなじで、栽培しても価値がある

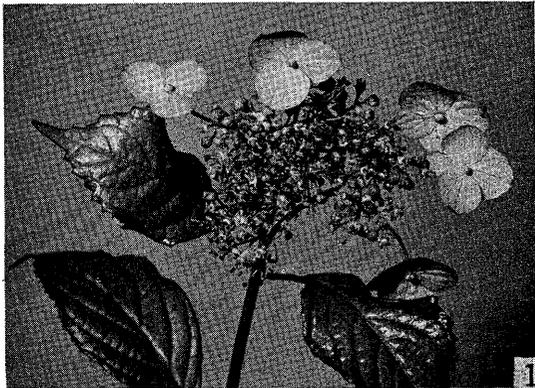


Fig. 1. *Hydrangea macrophylla* ssp. *serrata*. Normal form at Kagami, Kochi Pref. (Jun. 4, 1965).

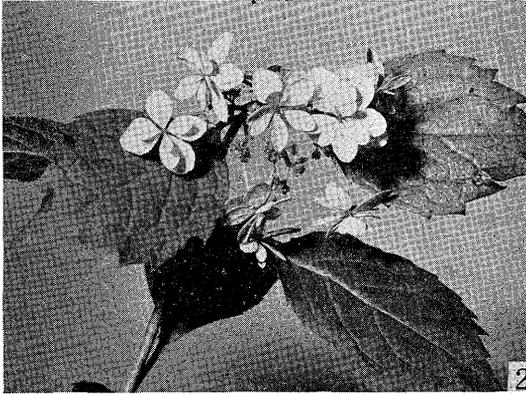


Fig. 2. *Hydrangea macrophylla* ssp. *serrata*. The double flowered form at Kagami, Kochi Pref. (Jun. 4, 1965).

と、やはりエゾアジサイの系統のものであるという。



Fig. 3. Blooming *Phyllostachys bambusoides* var. *castillonis* in Kochi City (April 1965).

ておく。1965 年はじめから各地で咲きはじめ、その後今までに私の見たキンメイチクはことごとく開花していた (図 3)。生育地の環境はさまざまであるので、それらの生態的な条件と開花とは、まったく関係がないものと思われる。

と思われる。

ヤマアジサイのなかまには、今までも八重咲きの品種が知られており、エゾアジサイ var. *megacarpa* Ohwi の中性花が重弁化したものにはホシザキエゾアジサイ f. *stellifera* Satake の名がある。古くから知られている栽培品種にシチダンカ (品種名としては f. *prolifera* (Regel)) があるが、これも原博士 (植研 30, 271-278 (1955)) による

牧野博士が日本植物図鑑 484 (1940) に、はじめて「稀に重弁 (forma *plena* Makino) の者あり」と書かれたのは、のちに杉本氏が日本樹木総検索誌 175 (1961) で *Hydrangea serrata* Seringe f. *plena* Makino として、ヤエノヤマアジサイの名を与えているが、これらの品種名はともに裸名である。したがってヤエノヤマアジサイを狭義のヤマアジサイの品種として f. *plena* Makino とするなら、厳密にはこのままでは通用しないことになる。ヤマアジサイの類については、いろいろ異なった見解があるが、ここでは以上のいきさつだけを述べて、とりあえず実物を紹介することにしておく。

2. キンメイチク 本誌 40: 249 (1965) に久内教授は、千葉県下でキンメイチク *Phyllostachys bambusoides* Sieb. et Zucc. var. *castillonis* Makino の開花を報告せられたが、

高知県でもいっせいに開花したことを報告し

3. ジョウロウホトトギス  
 ジョウロウホトトギス (トサ  
 ジョウロウホトトギス) *Tricyrtis macrantha* Maxim.  
 は、名のごとく美しい花を開く珍しい植物であるが、今までの記載や図鑑の説明には、夏、ことに8月頃開花することになっている。しかしこれは明らかに誤っていて、8月なかばにはまだほとんどつぼみも見えない。例年花が咲き始めるのは9月下旬で、10月上旬が盛りになる(図4)。

この植物の type locality である高知県高岡郡横倉山ではしだいに少なくなり、今では手のとどくところではあまり見られなくなっている。しかしおなじ高岡郡の佐川町や葉山村にはかなり多く生えているところがあり、ともに石灰岩地以外には見られない。

ただこれらの地方でも、石灰岩の採掘計画などがあり、荒らされるおそれも多く、またこの花の写真も今までにあまり見られなかったので、ここにのせておくことにした。

(高知大学教育学部生物学教室)

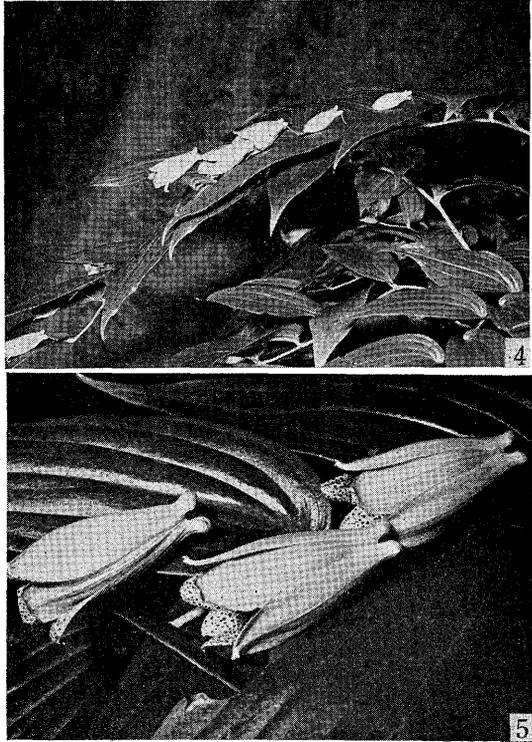


Fig. 4. *Tricyrtis macrantha* at Sakawa, Kochi Pref. (Oct. 9, 1965).

□R. Hegnauer: **Chemotaxonomie der Pflanzen**. Band 3; Dicotyledoneae, 1 Teil von Acanthaceae bis Cyrillaceae, 1964. pp. 743, 12,300円. 発行所 Birkhäuser Basel. 本篇は2冊の既刊につぐ第3巻として出版され、扱れた科は Acanthaceae から Cyrillaceae までで、以後は恐らく第4巻にて完成されることであろう。この本の科の順序は分類順でなく、科名のアルファベット順であるからAにはじまる科からCに始まるものまでである。  
 (久内清孝)